№11719　（2013.3.19）

第１２回（２０１２年度）佐治敬三賞は「kuniko plays reich in Kyoto」および「Sep.5 2012 Thanks to John Cage」に決定

公益財団法人サントリー芸術財団（代表理事・堤剛、鳥井信吾）は、わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演 に贈る「佐治敬三賞」の第１２回（２０１２年度）受賞公演を「kuniko plays reich in Kyoto」および「Sep.5 2012 Thanks to John Cage」の２公演に決定しました。

●選考経過

１．応募のあった２０１２年実施公演について２０１３年1月１４日（月・祝）東京･丸の内の東京會舘において､選考委員８名により第一次選考を行い、候補公演を選定した。

２．引き続き3月１２日（火）東京・丸の内の東京會舘において最終選考会を開催、慎重な審議の結果、第１２回（２０１２年度）佐治敬三賞に「kuniko plays reich in Kyoto」および「Sep.5 2012 Thanks to John Cage」の２公演が選定され、３月１８日（月）理事会において正式に決定された。

●賞金は２００万円。今回は同時受賞につき各１００万円が贈られる。

●選考委員は下記の８氏。

礒山 雅・伊東 信宏・岡田 暁生・岡部 真一郎・白石 美雪
楢崎 洋子・沼野 雄司・三宅 幸夫

（敬称略・５０音順）

●「kuniko plays reich in Kyoto」

＜贈賞理由＞

これまでも加藤訓子氏は様々な形で現代の音楽を手がけてきたが、本公演は、スティーヴ・ライヒのカウンターポイント・シリーズに焦点をあてた構成。きわめてすぐれていると考えられる点が三つある。まず第一は、当然ながらその演奏の精度の高さで、これについては多言を要しない。第二は、カウンターポイント・シリーズにおいてカギになる多重録音部分を、音響デザインの深田晃氏との共同作業によって、類例がないクォリティで再生していたこと。円型に配置されたスピーカーからの立体的な音響は、作曲者に聴かせたいほどの鮮やかさであった。そして第三は、本来はエレクトリック・ギターやフルートのために作曲された作品をマリンバに移し替える、加藤訓子氏のアレンジとアイディアの鋭さ。もちろんマリンバは音域の広い楽器ゆえ、ほぼそのまま他楽器の楽譜を演奏することが可能なのだが、しかし原曲の持つ音色を再現するための細かい工夫によって、全く単調に陥ることがない。以上の３点、すなわち演奏、音響、編曲の全てにおいて加藤訓子氏の強い意志が感じられる演奏会であり、佐治敬三賞にふさわしい成果とみなすものである。

＜公演概要＞

名　　称：音楽と市民の広場40　Music Room vol.10
　　「kuniko plays reich in Kyoto」
日　　時：２０１２年3月１８日（日）１５：００
会　　場：京都芸術センター 講堂
曲　　目：グルジアンソング（加藤訓子編）
　　ヤニス・クセナキス：ルボン〔a,b〕
　　スティーヴ・ライヒ：エレクトリック・カウンターポイント（加藤訓子編）
　　ヴァーモント・カウンターポイント（加藤訓子編）
　　アルメニアソング（加藤訓子編）
　　スティーヴ・ライヒ：シックスマリンバ・カウンターポイント
　　（加藤訓子編）
　　ハイウェル・ディヴィス：パール・グラウンド
構成・出演：加藤訓子
音響空間デザイン：深田晃
アフタートークゲスト：山中透（作曲家、プロデューサー、ＤＪ）
主　　催：京都芸術センター

●「Sep.5 2012 Thanks to John Cage」

＜贈賞理由＞

ひたすら笙の独奏に耳を傾けた２時間１０分あまり、あの時、あの空間で生じたことを言葉にするのは一筋縄ではいかない。単音、重音、和音が不意に鳴っては不意に消え、何気なく続いたり、何気なくとぎれたり。これと言って規則性もなく、躍動感を生み出すこともなければ緊張感を強いることもなく、淡々と、大きな変化のない時間が流れていく。西洋音楽の常道的な聴き方からすると、これがはたして音楽なのかとも思える散発的な音現象だが、その中に身を置くことがまさしくジョン・ケージの求めた音楽体験だと言える。

宮田まゆみ氏がケージの生誕１００年を記念して、誕生日の晩に企画したOne^{9}の全曲再演は、ケージというユニークな作曲家の創意をみごとに体現していた。時間に添って水平に流れる音響の連続体とは異質の、断片的な音響を放っていく作業は決して簡単なことではない。音の緩急や強弱による劇的な演出を身につけてきた演奏家にとって、根本的な発想転換を強いるからだ。しかし、宮田氏の演奏はあまりにも自然で、その葛藤が感じられない。それは個人的な資質というより、雅楽のなかで笙が伝統的に果たしてきた役割とも関わっているのかもしれない。

ケージは最晩年、宮田氏と出会って初めて笙の作品を手がけたのだが、One^{9}はまさに創作のプロセスから初演まで彼女の力があったからこそ、可能になった作品である。その全曲再演という困難な企画を実現し、素直な解釈を示すことによって、ケージの音楽へと多くの聴衆を巻き込んだ力量を高く評価したい。

＜公演概要＞

名　称：ジョン･ケージ生誕１００年没後２０年
　　Sep.5 2012 Thanks to John Cage　complete One^{9}
日　時：２０１２年9月5日（水）１９：００
会　場：サントリーホール ブルーローズ
曲　目：ジョン・ケージ　One^{9}　全曲
笙独奏：宮田まゆみ
主　催：株式会社 AMATI

以　　上

（ご参考）

佐治敬三賞について

公益財団法人サントリー芸術財団（代表理事・堤剛、鳥井信吾）は、故・佐治敬三（サントリー元会長、サントリー音楽財団元理事長）の功績を記念して、２００１年度（平成１３年度）から「佐治敬三賞」を創設しました。

この「佐治敬三賞」は佐治の音楽への深い愛情と理解およびチャレンジ精神、パイオニア精神を承継し、新しい世紀のわが国における音楽公演活動の一層の振興を願って、氏の名を冠した新しい賞として制定されました。

この賞は、毎年わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈られるもので、応募のあったものの中から選定されます。賞金は２００万円。

故・佐治敬三は、早くから文化事業への支援に力を入れ、特に音楽界においては鳥井音楽財団（現サントリー芸術財団）を設立、サントリー音楽賞をはじめとするわが国の洋楽の振興を目的とした諸事業のほか、東京初のコンサート専用ホール「サントリーホール」の建設・運営などを行ってきました。

１９９９年１１月3日に急逝した佐治の遺族から“音楽界のために役立ててほしい”として遺産の一部が寄付されたことから、財団で検討した結果、「佐治敬三賞」の創設にいたりました。

これまでの受賞公演

第１回（２００１年度）

「篠崎史子　ハープの個展VIII　～新たな領域を求めて～」

２００１年１０月１９日東京文化会館小ホール

「Just Composed 2001 in Yokohama ～現代作曲家シリーズ～大野和士が描く新世紀の音楽絵巻」２００１年8月３１日

横浜みなとみらいホール

第２回（２００２年度）

「アンサンブル・ノマド２００２年度定期演奏会＃１」

２００２年9月１７日　東京オペラシティ・リサイタルホール

第3回（２００３年度）
「現代の音楽展２００３　室内オーケストラの領域 III」
２００３年3月１７日　東京文化会館小ホール

第4回（２００４年度）
「三井の晩鐘」
２００４年１０月２４日　イシハラホール

第5回（２００５年度）
「next mushroom promotion vol. 8 『細川俊夫～５０年のランドスケープ』」
２００５年１０月１５日　ムラマツリサイタルホール新大阪

第6回（２００６年度）
「武生国際音楽祭２００６」
２００６年9月2日（土）～１０日（日）　越前市文化センター他

第7回（２００７年度）
「フランス現代音楽からの潮流～井上麻子×藤井快哉 DUO」
２００７年１１月１７日（土）
兵庫県立尼崎青少年創造劇場ピッコロシアター

第8回（２００８年度）
「実験室 vol.2『偽のアルレッキーノ／カンパネッロ』」
２００８年3月２７日（木）・２８日（金）　ミレニアムホール

第9回（２００９年度）
「クロノイ・プロトイ　第5回作品展～弦楽四重奏の可能性」
２００９年１２月9日（水）　東京オペラシティ・リサイタルホール

第１０回（２０１０年度）
「井上郷子（さとこ）ピアノリサイタル＃１９ モートン・フェルドマン作品集」
２０１０年2月２８日　東京オペラシティ・リサイタルホール
「東京シンフォニエッタ第２８回定期演奏会 湯浅譲二特集」
２０１０年１２月１０日　東京文化会館小ホール

第１１回（２０１１年度）

「林千恵子メゾソプラノ・リサイタル『アペルギス&グロボカール』」

２０１１年7月２７日（水）　門仲天井ホール

「児玉桃ピアノ・ファンタジーvol.１」

２０１１年9月１７日（土）　京都府立府民ホール“アルティ”

２０１１年9月１９日（月・祝）　東京文化会館 小ホール

第１３回（２０１３年度）「佐治敬三賞」応募について

２０１３年１～６月実施公演の応募受付は終了しました。

２０１３年７～１２月実施公演の応募方法は以下のとおりです。

・対象公演　２０１３年（平成２５年）７月１日から１２月３１日の間に国内で実施される音楽を主体とする公演。

・応募方法　所定の応募用紙にて応募いただきます。公演の記録映像、録音、印刷物などがある場合は資料として提出いただく場合があります。応募要項・用紙は、住所・氏名・電話番号を明記の上、郵送またはＦＡＸにてサントリー芸術財団までご請求下さい。また財団ホームページからもダウンロードできます。

・応募期間　２０１３年4月１日（月）から5月３１日（金）

・お問合せ先　サントリー芸術財団音楽事業部

〒１０７－６０２２

東京都港区赤坂１－１２－３２　アーク森ビル２２階

私書箱５０９号

電　話（０３）３５８２－１３５５

ＦＡＸ（０３）３５８２－１３５０

http://suntory.jp/SMF/

以　　上